

# 令和6年度 薬理学 I・II (B11a 薬理学)

【医科学】

授業回数			月日(曜日)	時限	講義内容	担当者			講堂
I	II					所属	職	氏名	
○	○	1	4月25日(木)	I	総論1	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	基一
○	○	2	〃	II	総論2	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃
○	○	3	4月26日(金)	III	総論3・薬物標的としての受容体	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
○	○	4	〃	IV	総論4・薬物標的としてのイオンチャネルとトランスポーター	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
○	○	5	5月2日(木)	II	総論5・薬物動態学、毒性学	薬剤部	教授	寺田 智祐	〃
○	○	6	〃	III	総論6・医薬品の開発(治験)	薬剤部	教授	寺田 智祐	〃
		7	〃	IV	自律神経作用薬1・総論	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		8	5月8日(水)	III	自律神経作用薬2・コリン作用薬、抗コリン作用薬	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		9	〃	IV	自律神経作用薬3・アドレナリン作用薬	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		10	5月10日(金)	III	自律神経作用薬4・抗アドレナリン作用薬	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		11	〃	IV	抗不整脈薬	循環器内科	講師	静田 聡	〃
		12	5月14日(火)	I	強心薬	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃
		13	〃	II	高血圧治療薬・血管拡張薬	神経・細胞薬理	助教	宮本 章歳	〃
		14	5月15日(水)	III	利尿薬	腎臓内科学	教授	柳田 素子	〃
		15	〃	IV	中枢神経作用薬1・総論	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		16	5月16日(木)	II	高脂血症治療薬	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃
		17	5月20日(月)	III	呼吸器疾患治療薬	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃
		18	〃	IV	消化器治療薬	システム神経薬理	准教授	實吉 岳郎	〃
		19	5月21日(火)	I	糖尿病治療薬	神経・細胞薬理	准教授	木内 泰	〃
		20	〃	II	内分泌系作用薬	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃

※「薬理学 I」については、自分の興味や研究分野に照らし合わせ、計15回を自ら選択し受講すること。

「薬理学 II」については、同じく計30回を自ら選択し受講すること。

ただし、いずれも○がついている総論(6回)の授業は必ず受講すること。

# 令和6年度 薬理学 I・II (B11a 薬理学)

【医科学】

授業回数			月日(曜日)	時限	講義内容	担当者			講堂
I	II					所属	職	氏名	
		21	5月22日(水)	III	抗凝固薬・抗血小板薬	神経・細胞薬理	講師	山城 佐和子	基一
		22	"	IV	中枢神経作用薬2・抗精神病薬	システム神経薬理	助教	浅岡 希美	"
		23	5月23日(木)	I	麻酔薬(全身、局所)と筋弛緩薬	麻酔科学	教授	江木 盛時	"
		24	"	II	中枢神経作用薬3・抗うつ剤、抗不安剤	システム神経薬理	准教授	實吉 岳郎	"
		25	"	III	中枢神経作用薬4・抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬	システム神経薬理	特定講師	細川 智永	"
		26	"	IV	抗炎症薬・免疫抑制剤1	創薬医学	特定准教授	タムケオ・ディーン	"
		27	5月24日(金)	III	抗炎症薬・免疫抑制剤2	創薬医学	特定准教授	タムケオ・ディーン	"
		28	"	IV	抗炎症薬・免疫抑制剤3	創薬医学	特定准教授	タムケオ・ディーン	"
			5月27日(月)	II	第1回試験(講義1-14, 16-21)				"
		29	5月28日(火)	I	中枢神経作用薬5・オピオイド系、非オピオイド系鎮痛薬	システム神経薬理	助教	浅岡 希美	"
		30	"	II	抗菌薬	臨床病態検査学	教授	長尾 美紀	"
		31	5月29日(水)	III	抗腫瘍薬1	薬剤部	助教	今吉 菜月	"
		32	"	IV	抗腫瘍薬2・分子標的薬1	神経・細胞薬理	准教授	木内 泰	"
		33	5月30日(木)	III	抗腫瘍薬3・分子標的薬2	薬剤部	助教	今吉 菜月	"
		34	"	IV	薬物の毒性・副作用	薬剤部	准教授	中川 俊作	"
		35	5月31日(金)	III	薬物の吸収・分布	薬剤部	講師	平 大樹	"
		36	"	IV	薬物の代謝・排泄	薬剤部	講師	平 大樹	"
		37	6月3日(月)	III	薬物動態の変動因子	薬剤部	准教授	中川 俊作	"
		38	"	IV	臨床薬物速度論・治療薬物モニタリング(TDM)	薬剤部	准教授	中川 俊作	"
		39	6月5日(水)	III	薬物相互作用	薬剤部	講師	平 大樹	"

※「薬理学 I」については、自分の興味や研究分野に照らし合わせ、計15回を自ら選択し受講すること。  
 「薬理学 II」については、同じく計30回を自ら選択し受講すること。  
 ただし、いずれも○がついている総論(6回)の授業は必ず受講すること。

## 令和6年度 薬理学 I・II (B11a 薬理学)

【医科学】

授業回数			月日(曜日)	時限	講義内容	担当者			講堂
I	II					所属	職	氏名	
		40	6月5日(水)	IV	薬物投与法、剤形とdrug delivery system	薬剤部	助教	勝部 友理恵	基一
			6月19日(水)	II	第2回試験(講義15, 22-40)				〃

※「薬理学 I」については、自分の興味や研究分野に照らし合わせ、計15回を自ら選択し受講すること。

「薬理学 II」については、同じく計30回を自ら選択し受講すること。

ただし、いずれも○がついている総論(6回)の授業は必ず受講すること。